

初春を迎えて

豊川市長 竹本 幸夫



新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい令和5年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

豊川市は、本年6月1日に市制施行80周年という大きな節目を迎えます。そのため、令和6年3月までの間、市民の皆さまや関係機関、各種団体、企業の皆さまの協力を得て、「もつと、ずつと、豊川。」をキャッチフレーズに、100を超える記念事業を実施します。多くの市民の皆さまにご参加いただき、一緒に豊川市を盛り上げていただきますようお願いいたします。

さて、繰り返される新型コロナウイルス感染症拡大の波や物価の高騰は、日々の暮らしや事業活動に影響を及ぼしています。本市としては、引き続き感染拡大防止や物価高騰対策、地域経

済の活性化に向けて取り組むとともに、市長マニフェストでお示した3つの基本理念に基づき、「元気なとよかわ 子育てにやさしく 人が集うまち」の実現を目指して、各施策を進めてまいります。

基本理念の1「暮らしやすさ第一豊川市」では、八幡地区において、多様な都市機能の集積を高め、戦略的にぎわい交流エリアの形成を目指しております。間もなくイオンモール豊川が開業することで、多くの人が訪れるにぎわいの場となり、新たな雇用にもつながるものと期待しています。また、雇用に関して、新規工業団地の整備に向けた検討も引き続き行つてまいります。そして、暮らしやすさとまちの魅力を総合的に高めるため、JR愛知御津駅の橋上化など、市街地インフラの整備を進めるとともに、開園30周年を迎える赤塚山公園、桜ヶ丘ミュージアムの茶室「心々庵」、豊川公園の12面テニスコートのリニューアルオープンを予定しています。

基本理念の2「子育て豊川応援団」では、昨年6月に開設した産前産後サポートセンター「くるみ」において、妊娠前から切れ目のない子育て支援を行い、民間を含めた保育園の計画的な建て替えや総合保健センター（仮称）

の整備も進めます。また、子ども・子育て、障害、高齢、困窮などの分野を超えて各支援機関が連携し、包括的に相談者を支える体制として、重層的支援体制整備事業の本格的運用を開始します。

基本理念の3「市民と創る協働と健全財政のまち」では、コミュニティ活動の活性化を図るため、地域で活躍する交通安全指導隊員やスポーツ推進委員、消防団員に対する活動費などの支援を引き続き実施するとともに、スマートフォンなどを活用した電子回覧板の導入を支援し、町内会活動のICT化を推進します。また、家庭における再生可能エネルギーを活用したシステム導入の支援を継続する他、主要な拠点駅周辺におけるパーク・アンド・ライドの環境整備を進めます。行財政運営では、情報技術の活用により、一層の効率化と市民サービスの向上を図つてまいります。

「もつと元気なとよかわ」を目指し、本年も、誠心誠意市政運営に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、希望に満ちた素晴らしい一年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。